

**学校経営方針（学力向上に関わる要点）**

◎主体的に学び、確かな学力の向上を図る教育の推進

- ・学年段階に応じて、学習の基礎・基本を身に付けさせる工夫・積み重ねができるようにする。
- ・体験活動を重視し、児童に学習の目的や課題を明確にもたせ、その解決を目指した学習ができるようにする。
- ・児童が考え判断し表現することを十分に経験させるとともに、指導者や子供相互で認め合う場を位置付け、協力して問題解決に取り組む。
- ・I C Tの活用を図る等、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。

各教科の指導の重点

- ◎児童自らが学び、自らが考える教育の推進を図る。
- ・めあて学習を基本として、自ら進んで学習に取り組む態度の育成
- ・基礎・基本の定着
- ・思考力・表現力・判断力の育成
- ・児童相互にかかわり合いながら、めあてが達成できるような支援

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・生活や体験の中から、自ら課題を設定し、進んで計画を立てて追究することができるようとする。
- ・学習を振り返り、修正を加え、先の見通しをもって活動を進めることができるようとする。
- ・内容や目的に合ったまとめ方や表現ができるようとする。
- ・体験や交流を通して、多様な考え方、生き方があることを理解し、学んだことを生活に生かすことができるようとする。

学校教育目標

- 考える子
- ねばり強い子
- 心ゆたかな子

児童の実態

- 真面目で素直な児童が多い。
- 知識・技能・学ぶ意欲に差がある。
- 自分の思いや考えを自信をもって伝えることが必要である。

**本校における「確かな学力」
知識・技能、学ぶ意欲、学び方、課題発見力、問題解決力、思考力、表現力、判断力****今年度の重点**

各教科の学習を通して、「思考力」、「表現力」、「判断力」を高める。

◎ 学ぶ意欲

一人一人の今できることをもとに、楽しんだり、技能を高めたりするためのめあてをもてるようにして、児童自らが主体的に学習に取り組んでいけるようとする。

◎ 問題解決力・学び方

児童一人一人がめあて達成のために必要な情報を、学習資料として与えられ、児童相互に確認や助言をし合ったりしながら、主体的に学習できるようとする。

めあて達成に向けて主体的に
活動していく過程で
思考力・表現力・判断力を高める

道徳教育の指導の重点

- ・集団の一員としての自覚をもち、思いやりや優しさなど人間性豊かな心をもつことができる。
- ・自他の命を尊重し、健康で明るく活力ある生活を送ることができる。
- ・めあてに向かって、主体的に取り組み、最後まで根気よくやり通すことができる。

特別活動の指導の重点

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

生活指導の重点

- ◎深く考え、正しく判断する児童
- ・集団の中で自分がどのように行動したらよいか考え、判断できるようになる。
- ・相手の気持ちや立場を理解し、互いを認め合い、協力して行動できるようになる。
- ・自分の生活を振り返り、よりよくしていこうとする態度を育てる。

本校の授業改善に向けた視点～校内研究を中心に～

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
研究主題 「運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・協働的に取り組む児童の育成～運動や健康の課題を解決するために～」 ○運動の特性や魅力に応じて運動の基本的な技能を身に付けさせる指導法の工夫 ○「主体的・協働的」な学習活動の工夫 ○体育的活動(長縄・持久走・短縄)の実施 ○オリンピック・パラリンピック教育の推進	○授業時数を極力減らさず、研究授業の時間を確保するために、月1回の校内研究日を基本とし、小中一貫研修会で校内研の内容を行ったりするなどの工夫をする。 ○中休みを5分延長し、25分間に設定する。 (原則外遊び)	○全教員が研究授業を行い、教員一人一人が児童の確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組む。 ○小中一貫教育実践校の研究を生かし授業に取り入れる。 ○日常の授業観察では、指導案を作成し、校内で公開する。	○ねらいに則して評価計画を作成し、個に応じた評価を行う。 ○指導者が適切な支援を行うとともに、児童相互にかかわりをもたせ、自分の取組を振り返らせる。 ○学習カードをもとに、指導者がその時間の活動を評価すると共に、次時へ向けての助言を行う。	○掲示板やホームページで研究授業の様子を伝えたり、学習で使用したワークシートに保護者の記入欄を設けたりして、家庭、地域への啓発をしていく。 ○学校関係者評価を授業改善に生かす。 ○体力テストの結果、課題解決のための取組を明らかにし、実践する。